



11月の花： アングレカム

事務所便り

令和3年11月号

特定社会保険労務士・行政書士 重村 勝弘

重村行政労務管理事務所

ご連絡先：〒235-0021

：横浜市磯子区岡村 7-8-15-102

電話・FAX：045-754-3412 携帯：070-5542-1466

E-mail：shigemura.office@etude.ocn.ne.jp

●中国の若者に広がる“寝そべり主義”とは

今、ある言葉が中国のインターネット上で広がりをみせている。それが「**タンピン**」。(タンは身へんに尚 ピンは平)元は中国語で「横たわる」という意味だが、“あえて頑張らないライフスタイル”を意味するキーワードとして使われ始め、若者の間に流行し社会現象になっている。

■SNS 投稿から社会現象に 若者の支持広がる

低賃金や「996」(朝 9 時から夜 9 時まで、週 6 日勤務)とよばれる過酷な勤務などが社会問題化。「90 後」「00 後」(それぞれ 90 年代と 2000 年代生まれ)とよばれる世代には、親が望む出世や結婚などに関心をもたない人が増えており、「タンピン」はそうした若者たちの心をとらえている。

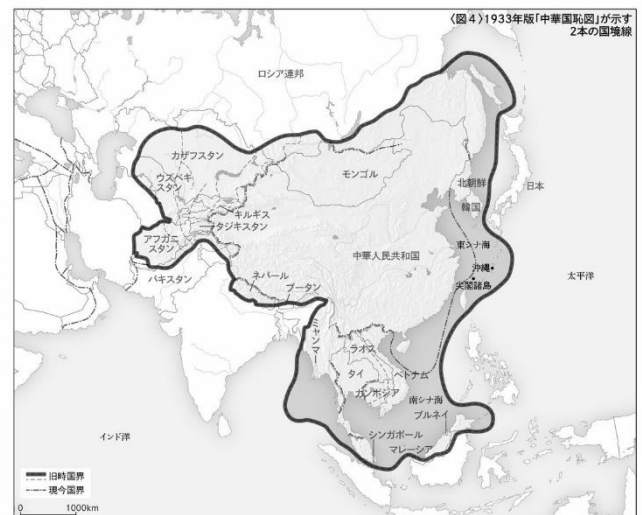
発端はことし 4 月、あるネットユーザーが中国で人気の SNS に投稿した「タンピンは正義だ」と題する文章である。「2 年以上仕事がなく、ずっと遊んでいるけれど、私は何も間違っていない。いつも周囲との比較や伝統的観念から圧力を受ける。人間はそうあってはならない」。

「中国では勤勉である限り自己実現ができる」として、次のように強調した。「奮闘すること自体が一つの幸福であり、奮闘する人生こそが幸福な人生だ」。「奮闘」は、**習近平**国家主席が発言の際にたびたび使ってきた言葉の一つだ。国営新華社通信のウェブサイトは、「新時代は奮闘の時代」と記し、“心に響く金言”として習主席の奮闘語録を紹介している。「全ての偉大な成果はたゆまぬ奮闘の結果」「強者は常に挫折から奮起し、気落ちすることなどない」「奮闘する人生こそが幸福な人生だ」 党指導部が繰り返し呼びかける「奮闘」という言葉に、「タンピン主義」を掲げて背を向ける若者たち。両者の間にはあきらかな温度差がうかがえる。中国では近年、就職難や都市部の物価の高騰など、これから社会に出る若者たちをとりまく環境は厳しさを増している。また、

若者たちの発信やコミュニケーションの場であるはずの SNS も、当局により厳しい情報規制が行われており、若い世代には閉塞(へいそく)感も漂っている。さらなる成長路線でアメリカと肩を並べる経済大国への道を突き進もうとする習近平指導部。しかし水面下では、社会に疲弊した若者たちの“静かな抵抗”が広がりを見せ始めている。

●中国が考える本当の領土？「国恥地図」

台湾海峡や南シナ海での挑発行動、新疆ウイグル自治区や香港での人権侵害。中国の強硬姿勢が報じられない日はない。なぜここまでやるのだろうか。じつは彼らの頭のなかには、「立ち返るべき本当の中国領土」があるのだ。それを示した特殊な地図を、100 年以上前に書かれた「国恥地図」という。(太枠で囲った範囲が国教と主張)



「かつての中国国境」という太枠は、近隣十八か国を呑み込み、日本をはじめ三か国を切り取り、南シナ海をほぼ囲んでいた。

譚翥美著「中国「国恥地図」の謎を解く」(新潮新書)より

サハリンもかつて中国領であったと記述されているがその説明に以下の文が記述されている。「**俄**占 一七九〇年後喪失 **日**占」(ロシアが占領、1790 年以後喪失、日本が占領) このように太字で囲まれた領域は「かつて中国の領土」であったもので、取り戻すべき国土と考えている。南北朝鮮も、沖縄も中国領となっている。



この地図によれば、現在問題となっている東シナ海も尖閣諸島も中国のものになってしまう。現在の中印国境紛争も当然起こりうるものである。このような中国の領土拡張の野望を阻止するには国際会議の場で糾弾する必要がある。

●中露の艦艇10隻、津軽、大隅海峡同時通過
…中国駆逐艦ヘリ発着で空自が緊急発進



東シナ海を航行する中国軍艦艇(右列)とロシア軍艦艇(23日撮影)

防衛省は23日、津軽海峡通過が初めて確認された中国とロシアの駆逐艦など計10隻が、鹿児島県・佐多岬と種子島間の大隅海峡を通り、東シナ海に向かったと発表した。中露の艦艇が同時に大隅海峡を航行するのが確認されたのは初めて



同省統合幕僚監部によると、中国艦5隻とロシア艦5隻は、18日に津軽海峡を通過して日本海から太平洋に出た後、太平洋を南下し、伊豆諸島の

須美寿島と鳥島の間を通過。22日に大隅海峡を抜けた。領海には侵入しなかった。

23日午前には、長崎県・男女群島の南南東約130キロの海域で、中国海軍の駆逐艦がヘリコプターの発着艦を実施したため、航空自衛隊の戦闘機が緊急発進して対応した。防衛省は両国の意図などを分析している。

今回の中露の行動は米英艦隊等の台湾海峡通過に対する報復であろうが、台湾海峡は最も狭い場所でも160キロの幅があり、日本の島々の間の水路に比べて規模が大きい。大隅海峡は最も狭い場所では27キロに過ぎない。

しかし、今回のように我が国の近海を中露の艦艇が訓練ながら航行するとは、明らかな威嚇であり、断固たる対応をすべきである。

●総選挙、全465議席が確定

昨日、投開票が行われた総選挙は事前の予想に反して、意外な結果になった。これほど、事前の予想と異なった結果となったことは例を見ない。

獲得議席			席	NHK			
合計	選挙区	比例	合計	選挙区	比例		
自民	261	189	72	N党	0	0	0
立民	96	57	39	支なし	0	0	0
公明	32	9	23	やまと	0	0	0
共産	10	1	9	コロナ	0	0	0
維新	41	16	25	第一	0	0	0
国民	11	6	5	諸派	0	0	-
れ新	3	0	3	無	10	10	-
社民	1	1	0				

自民党は261議席(—15)。立憲民主党は96議席(—14)。公明党は32議席(+3)。共産党は10議席(—2)。日本維新の会は41議席(30)。国民民主党は11議席(+3)。れいわ新選組は3議席(+2)。社民党は1議席(0)。NHK0議席(—1)無所属が10議席となった。

一言でいえば、自民、立民、共産が負けて、維新の独り勝ちとなった。

ただし、自民にとってみれば事前の大幅減の予想に反して、絶対的安定多数の261を確保できたことは今後の政権運営を容易にする。一方、安全保障や憲法に対して相反する政策を棚上げしたままの野党共闘は国民に支持されなかった。また、維新の国会での活動が注目される。